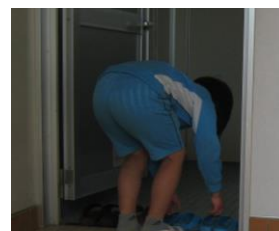




## 「スリッパを揃えることから見えてくること」はげましあう子の育成

新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)の急激な感染拡大により、子どもたちの健康安全面を考え、教育活動に制限をかけなければならない状況になっています。学校においてはマスクの着用、手洗いの励行、手指消毒の実施、換気の徹底を行いながら教育活動を推進していきます。ご家庭におかれましても引き続いての体調管理をお願いいたします。

さて、先日、トイレの清掃を行う様子を観ていると、スリッパを廊下に出してきて雑巾できれいに拭き、戻すときは使う人が履きやすいように向きを考えて揃えて置いていました。この様子はいつも見る光景で珍しいことはありません。この何気ない光景から見えてくることがあります。それは相手のことを考えて生活していく習慣が身に付いているということです。



清掃の様子

日本はプロ野球が盛んで読売巨人軍は人気球団の一つです。

その球団の監督をされた川上哲治さんをご存じでしょうか。

巨人軍の監督として1965年から1973年まで9年連続してプロ野球日本シリーズを制覇した監督です。「人間的成長なくして技術的進歩なし」を指導観にもち、人間教育を重視した指導をされていたようです。

指導内容の一つに「スリッパを揃える」ことがあったようです。日頃から他者が履きやすいようにスリッパを揃えることで、相手の立場になって物事を考える習慣が身に付くということなのでしょう。その効果として他の選手の守備位置や打順を念頭に入れてプレーを行うことができるようになり、チームプレーの精度が上がり、9連覇を成し遂げることができたのです。「スリッパを揃える」ことの目的を教え、その行動が組織的なプレーにつながっていくことを選手に伝えて、日々指導をされていたのでしょう。

このことから、私たち教師や保護者の皆様が「スリッパを揃えましょう」と言うだけでなく、揃えることの目的や効果を適切に伝えて子育てをしていくことが大切であると考えます。つまり、相手が生活しやすいように考えることは、「相手のことを考えて行動する能力」が身に付いていくことを教えていくことになります。



全校朝会「スリッパの話」

このような指導を継続的に行い、成長過程で褒めていくことを行っていけば、相手のことを思いやる気持ちが育まれ、「相手の立場になって物事を考える視点」が養われていくことになるのではないのでしょうか。

子どもたちが社会人として働く時代にはグローバル化が進み、多様な価値観をもった人々と働いていくこととなります。その中で、この能力が身に付いていれば、人間関係を円滑にすることができ、組織人として働くことができるようになると思います。

昼休みに運動場に目を向けると、異年齢で遊ぶ光景をよく見かけます。

1年生から6年生までが混じってのドッジボールやサッカー。寒い中ですがたくさんのお子たちが運動場に出ています。すごく楽しみにしていることが分かります。ふと考えてみると、高学年が低学年の立場になって考え、ボールを投げたり蹴ったりする速度など、遊び方を考えて活動しているからこそ、楽しく遊ぶことが成立しているのでしょう。

いろんな場面で、「相手の立場になって物事を考える視点」が養われていると感じています。

学校長 善村 龍昭